

一般国道9号 出雲バイパス(神立～中野東)に係る新規事業採択時評価

- 出雲バイパス(神立～中野東)の整備により、交通容量を拡大し、交通集中による交通混雑を解消。
- 交通混雑の解消により物流効率化が図られ、地域経済を支える製造業の活性化を支援。
- 県内唯一の高度救命救急センターへの搬送時間が短縮し、救命率の向上に寄与。

1. 事業概要

- 起終点：島根県出雲市斐川町伊川～島根県出雲市中野町
- 延長等：1.8km(第4種第1級、4車線、設計速度60km/h)
- 全体事業費：約140億円
- 計画交通量：約25,500～約26,000台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物
約19,300/日	約3,000台/日	約3,700台/日

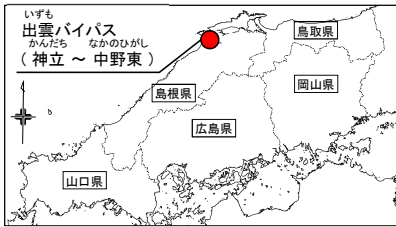


図1 事業位置図

2. 課題

課題①交通集中による旅行速度の低下

- 当該区間は斐伊川渡河部を通過しており、市街地に流入する数少ない経路である。
- このため周辺道路から交通が集中して交差点を先頭に渋滞が発生。朝ピークの旅行速度は10km/h未満と著しく速度が低下し、通勤・業務交通等の利便性が低下。(写真①、図2)

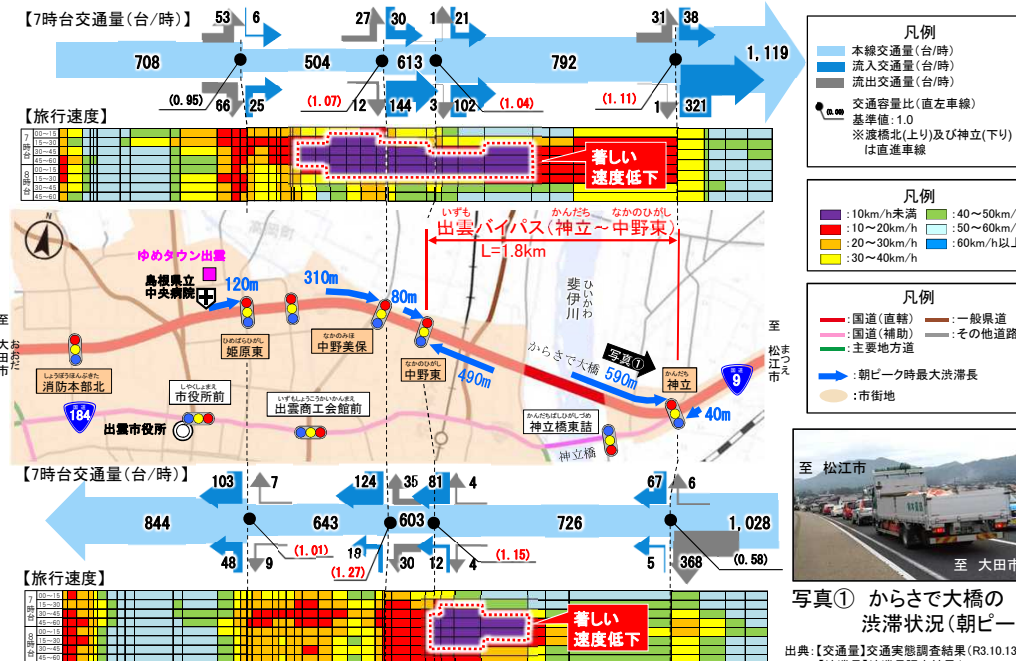


図2 朝ピークの交通量と渋滞状況

課題②物流への影響

- 出雲市は電子部品等の製造品出荷額等が中国地方第2位であり、出雲バイパス周辺に製造業事業所が多数立地。(図3、図4)
- 当該区間では交通の集中による混雑により、出雲バイパス東側の工業集積地から大田市内関連工場への物流に支障が生じている。(写真②)

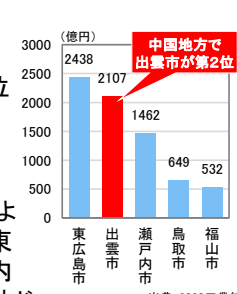


図3 電子部品等の製造品出荷額等の上位5位



図4 当該区間周辺の製造業立地状況 貨物車の区間別利用頻度

課題③救急搬送活動の阻害

- 出雲バイパス沿線に立地する島根県立中央病院は、県内唯一の高度救命救急センターであり、年間約4,000件もの救急搬送を受け入れ。(図5)
- 当該区間は副道や交差道路がなく、搬送時の速達性確保が課題。(図6)



図5 島根県立中央病院への搬送経路



写真② 当該区間周辺での渋滞状況

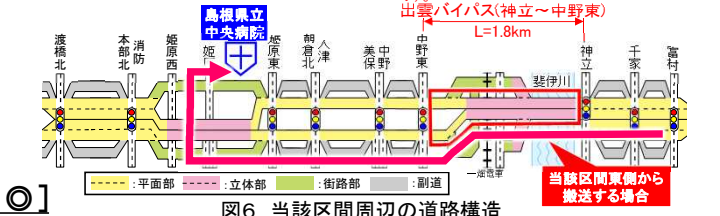


図6 当該区間周辺の道路構造

3. 整備効果

効果1 円滑な交通の確保[◎]

- 対象区間の4車線整備により、朝ピークの容量超過による渋滞を解消。
- 所要時間短縮 【現況】約8分 → 【整備後】約2分
- 平均旅行速度 【現況】約14km/h → 【整備後】約60km/h

効果2 物流効率化による地域産業の支援[◎]

- 対象区間の交通混雑の解消により旅行速度が向上。物流効率化により地域の経済活動を支援。
- 出雲バイパス東側の工業集積地から大田市内関連工場への所要時間 【現況】約69分 → 【整備後】約59分

効果3 救急医療活動の円滑化[◎]

- 対象区間の交通混雑が解消することにより、三次救急医療機関への搬送時間が短縮し、救急医療活動の円滑化に寄与。
- 斐川消防署から島根県立中央病院への搬送時間の短縮 【現況】約22分 → 【整備後】約16分

費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

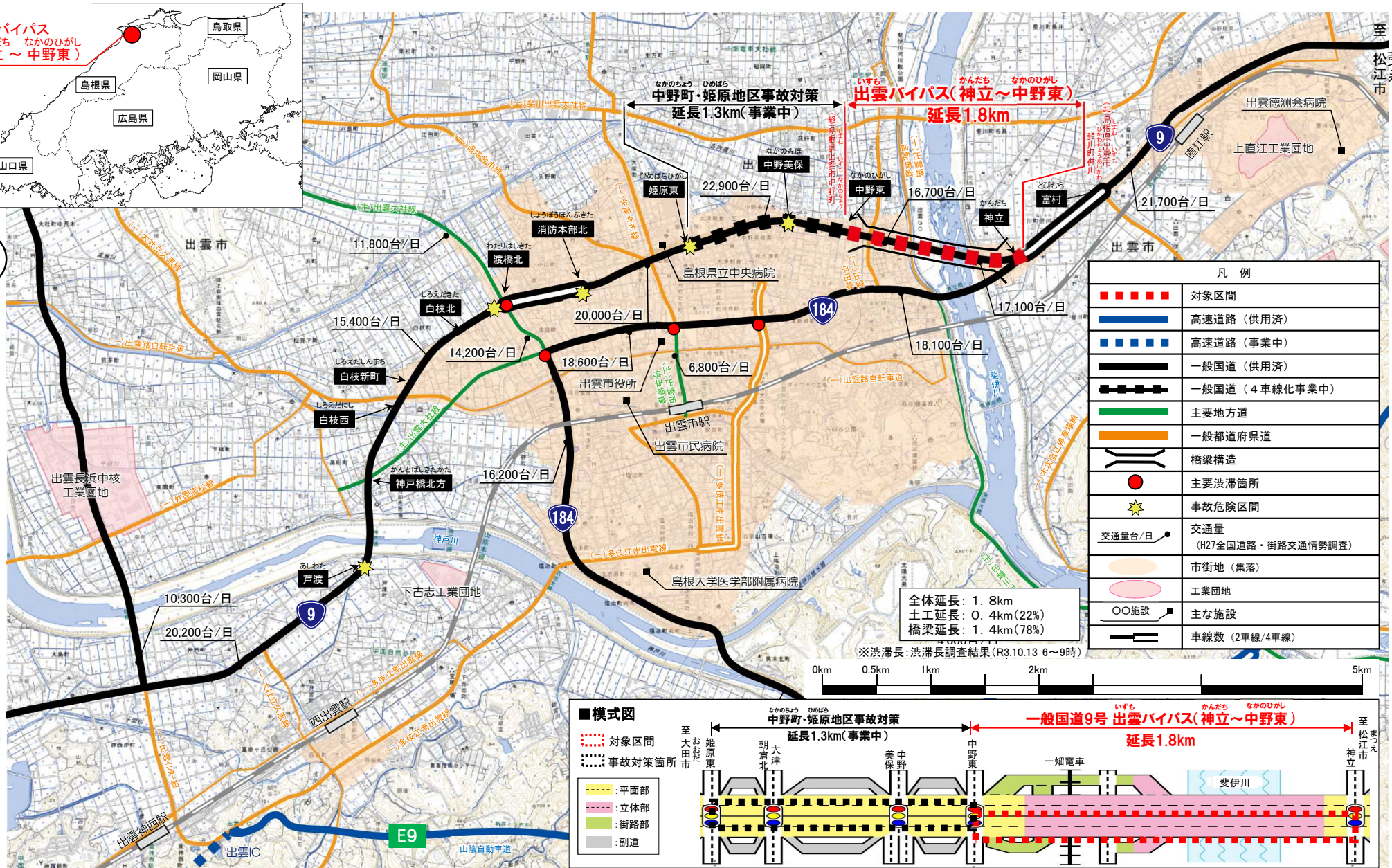
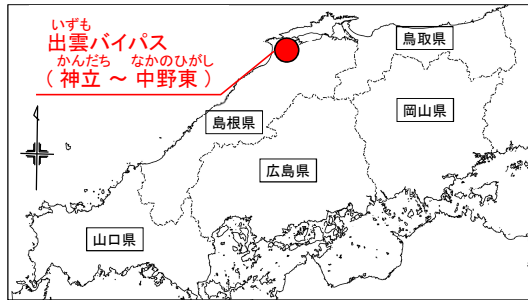
B/C	EIRR※1	総費用	総便益
1.3	5.5%	113億円※2	145億円※2

写真① からさで大橋の渋滞状況(朝ピーク)

出典：【交通量】交通実態調査結果(R3.10.13 7時) 【渋滞長】渋滞長調査結果(R3.10.13 6～9時) 【旅行速度】ETC2.0プローブデータ(R3.4～9 平日)

※1: EIRR: 経済的內部収益率 ※2: 基準年(R3年)における現在価値を記載 (現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

一般国道9号 出雲バイパス(神立～中野東)に係る新規事業採択時評価



	対象区間
	高速道路 (供用済)
	高速道路 (事業中)
	一般国道 (供用済)
	一般国道 (4車線化事業中)
	主要地方道
	一般都道府県道
	橋梁構造
	主要渋滞箇所
	事故危険区間
	交通量台/日
	市街地 (集落)
	工業団地
	〇〇施設
	車線数 (2車線/4車線)

